

今週の為替相場見通し(2022年1月24日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		113.60 ~ 115.06	113.69	113.00 ~ 115.00
ユーロ	(ドル)		1.1303 ~ 1.1483	1.1342	1.1300 ~ 1.1450
(1ユーロ=)	(円)		128.88 ~ 131.17	128.98	128.00 ~ 129.50
英ポンド	(ドル)		1.3546 ~ 1.3736	1.3551	1.3450 ~ 1.3600
(1英ポンド=)	(円)	*	153.91 ~ 156.91	154.07	153.00 ~ 155.00
豪ドル	(ドル)		0.7171 ~ 0.7292	0.7172	0.7050 ~ 0.7300
(1豪ドル=)	(円)	*	81.50 ~ 82.97	81.59	80.10 ~ 82.60

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 逸見 久貴

(1) 今週の予想レンジ: 113.00 ~ 115.00 円

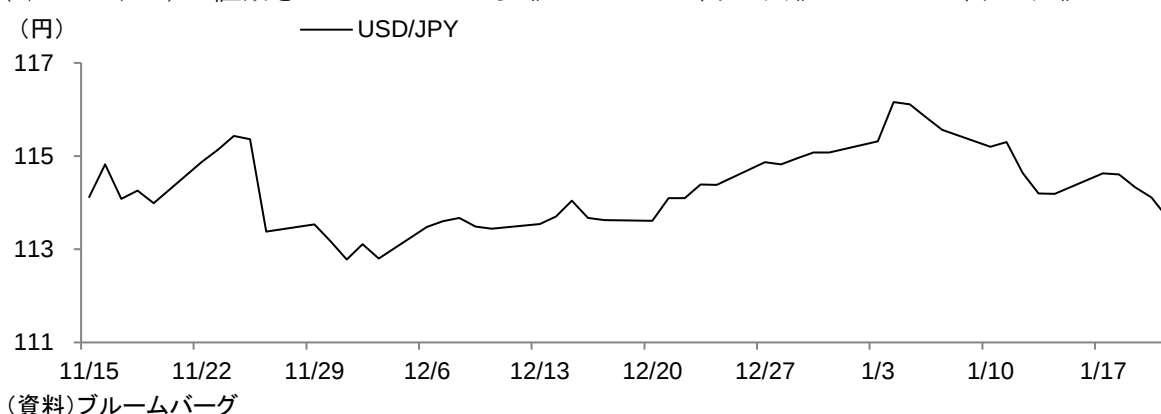
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円は下落。週初、114.31円でオープン。NY休場となる中、114円台半ば付近を小動き。翌18日、日銀金融政策会合にて緩和策の継続が決定されると、円売りが強まり、ドル/円は週高値115.06円まで上昇。その後、米金利が上昇する中、米株が軟調推移となりリスクオフ地合いに。米経済指標が予想を下回ったことも嫌気され、米株は大幅に下落すると、ドル/円も114円台半ばまで下落した。週央19日、リスクオフ地合いが継続しドル/円は114円台前半まで軟調に推移。やや値を戻す場面もあったが、NY時間に入り米金利が下落すると、結局114円台前半まで押し戻された。20日、東京時間序盤は引き続きアジア株が軟調に推移する動きにドル/円は上値重い展開。しかし114円割れを目前に中国で最優遇貸出金利の引き下げが発表されたことからアジア株の下げが一服すると、114円台半ばまで反発。その後、米経済指標の冴えない結果にドル/円は再度、下落を開始。一時114円を割り込み113.96円まで下落するも、更なる下押しとはならず114円台前半に戻した。週末、株安を受けた円買いと米金利を受けたドル売りも相俟ってドル円は週安値113.60円をつけ、113.69円で越週。

今週のドル/円は週後半にかけて小確りとした推移を想定。25日(火)から26日(水)にかけてFOMCが開催される。12月開催のFOMCでは、テーパリングの終了時期を6月から3月へと前倒しし、22年中の利上げ回数も1回から3回へ引き上げた。更にパウエルFRB議長からは、正常化ペースを再検討することが示唆されており、市場では年4回利上げと早期QTへの懸念が強まっている。すでに拍車がかかる正常化プロセスを嫌気して株式市場を中心に調整が進んでおり、タカ派によほど傾斜しない限り、イベント消化の安心感から、リスクオフの巻き戻しが入りドル/円は底堅い推移を予想している。また、27日(木)には米10~12月期GDP(速報)が公表される。米7~9月期GDPは、供給制約が強まった影響から前期比年率+2.3%と低水準に留まった。今回発表分も同様の理由から低推移となるであろうが、プラス圏を維持する見込み。一方で日本の7~9月期GDPは経済活動が制限された中で民間需要の弱さが浮き彫りとなり、マイナス成長となった。日10~12月期GDPは幾分か回復すると思われるが、足元では再び経済活動の制限が始まっている。経済活動の正常化見通しが未だに不透明な日本と経済を回し続ける米国との差は大きく、昨年下半年以降の日本回避の動きは継続すると考えられ、円が前向きに買い進められる展開は想定していない。

(3) 先週までの相場の推移

先週(1/17~1/21)の値動き: 安値 113.60 円 高値 115.06 円 終値 113.69 円



2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 尾身 友花

(1) 今週の予想レンジ: 1.1300 ~ 1.1450 128.00 ~ 129.50 円

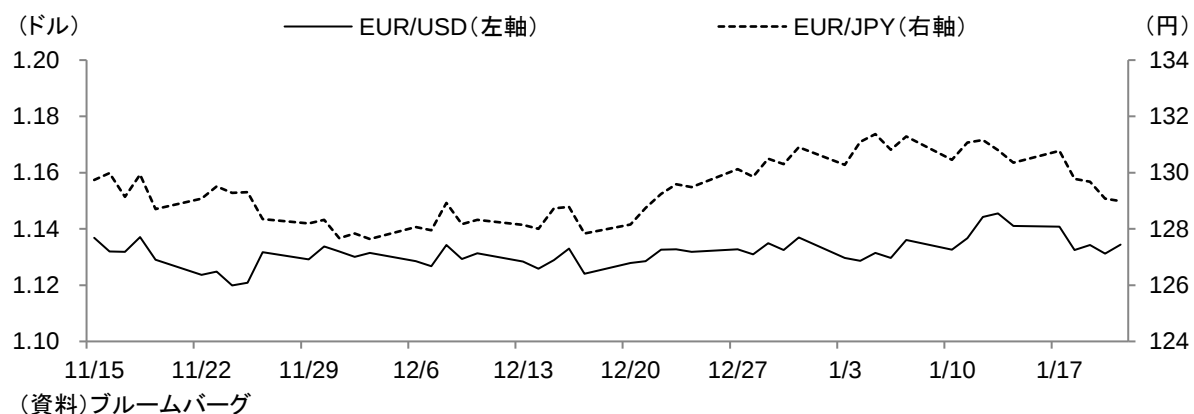
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は週後半にかけて下落する展開となった。週初17日、1.1410付近でオープンしたユーロ/ドルは欧州時間にかけて一時1.1434まで上値を伸ばすも、その後はやや材料難となった。18日、ユーロ/ドルはオープン後に一時上値を伸ばすも、米金利上昇や欧米株式市場の冴えない動きに1.13台前半まで急落。その後も戻りは鈍く1.13台前半での揉み合いとなった。19日、ユーロ/ドルは前日の安値付近まで下げ幅を広げるも、米長期金利低下に伴うドル売りからじり高に推移して1.13台半ばまで上昇した。20日、ユーロ/ドルは米金利低下に伴うドル売りや独12月生産者物価指数の強い結果に1.13台後半まで値を上げるも、その後は米長期金利の下落幅縮小を受けてドル買い優勢となり、一時1.1303まで下落した。週末21日のユーロ/ドルは前日の安値付近での取引が継続するも、海外時間は株価の下落からドル売りが優勢となり1.13台半ば付近まで上昇してクローズした。ユーロ/円は週を通して下落した。ドル/円が下落したことで、ユーロ/円も129円付近まで値を下げた。

今週は米FOMCを週内に控えユーロ/ドルが底値から抜け出せるか注目している。ユーロ/ドルは昨年11月末より1.13近辺にてレンジ取引を継続している。今月の半ばにドル売りが進行した場面では、ユーロ買い・ドル売りとなり一時1.14台後半まで上昇する場面が見られるもその後再び1.13台に反落している。米国の年内利上げ開始がほぼ行われると見込まれる中、株価の調整が見られており、調整が本格化すると一時的にドル売りが強まり、ユーロ/ドルは上昇するのではないだろうか。但し、その場合、対円(ユーロ/円)では、ドル/円も下落すると考えており、ユーロは下落するだろう。また、今週は、来週にECB政策理事会を控えてユーロ関連の金融政策に関する思惑も出てくる可能性がある。ECBは資産買い入れの段階的縮小の可能性に触れており、資産買い入れ終了後の利上げ期待が出やすい雰囲気となっている。今週開催のFOMCにて政策内容が弱いものと捉えられれば、ECBの金融政策への期待からユーロが買われる可能性もあるかもしれない。今週は、24日(月)欧1月・製造業PMI、欧1月・サービス業PMI、欧1月・コンポジットPMI、28日(金)欧1月・景況感、欧1月・消費者信頼感の発表が予定されている。欧12月・製造業PMIは58.0となり、先々月より小幅な低下となり、供給制約に伴う原材料価格の上昇が足許で緩和されつつある状況が報告された。今月も低下幅が小さければユーロに対する好材料となるだろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(1/17~1/21)の値動き: (対ドル) 安値 1.1303 高値 1.1483 終値 1.1342
(対円) 安値 128.88 高値 131.17 終値 128.98



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.3450 ~ 1.3600 153.00 ~ 155.00 円

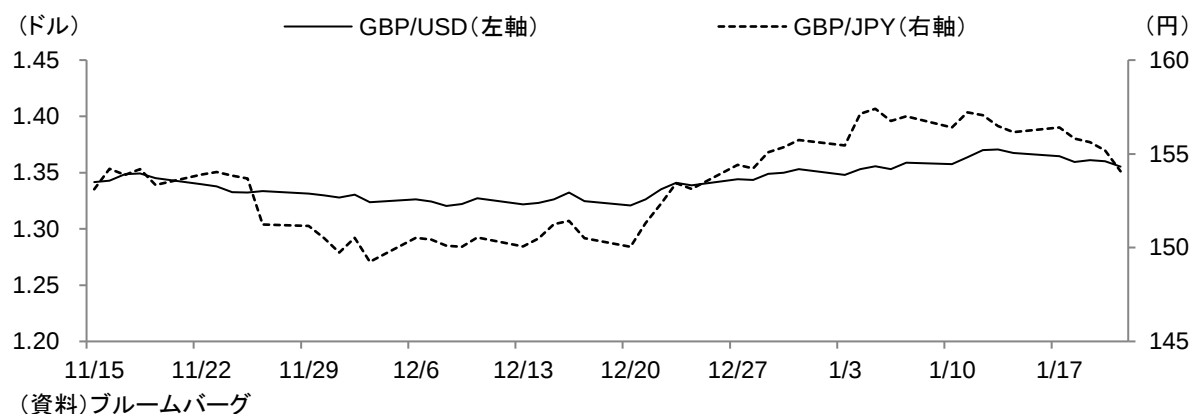
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドル、対円では、ほぼ一貫した軟調推移で、水準を切り下げた。対ユーロでは堅調気味の推移が先行したが、21日になって突然反落、週を振り返って、結局、水準を切り下げた。ポンドが対ユーロで堅調推移を先行させたのは、ユーロ全面安の結果で、ポンド側に要因があつての値動きとは思われなかった。ユーロ全面安の背景には、引き続き、米連銀、英中銀など、他の主要中銀との比較で、欧州中銀は金融引き締めに見極められる市場の思惑があつた。欧州中銀ラガルド総裁は、20日、「欧州中銀が、米連銀ほど迅速に行動(利上げ)しない十分な理由がある」などと述べた。対ドル、対円でのポンド軟調の背景は、英政局の混乱に求められたのだろうか。一般市民がコロナ禍で厳しい行動制限を強いられた最中に、首相官邸など政権中枢の一部の職員たちが頻りに宴会を催していた事実は、引き続き、世論の厳しい糾弾を受け、ジョンソン首相に対する辞任圧力は一段と強まったように思われた。18日に発表された英雇用統計で、9~11月賃金が、市場の予想通りながら、前月から明確に減速したのは、或いは同日のポンド下押しを促したかもしれない。ただ、翌19日に発表された英12月CPIは予想を明確に上振れ、インフレ警戒感や英中銀追加利上げを巡る思惑としては交錯した現状を示した。一方で、21日に発表された英12月小売売上高が、前月分の下方修正と合わせ、大幅に市場予想を下振れたことが、週引けにかけてのポンド全面安に大きく貢献したのは間違いなさそうだった。

今週の英ポンド相場は、軟調推移継続を中心に予想。今週最大の注目材料は、上述、宴会疑惑を巡り、今週中にまとめられる予定の報告書。調査を担当したレベルアップ・住宅・コミュニティー省のグレイ第二事務次官は、ジョンソン首相に対し、週内に報告書を提出し、首相はその内容を公表するものと見込まれている。これまでに報道された内容から判断して、一連の宴会が「業務上必要なものだった」「当時のコロナ規制が順守されていた」という結論が下される可能性は極めて低いように思われる。現在までに首相不信任案に対して態度を保留している与党保守党議員の中にも、報告書の内容が明らかになった時点で首相を見限る議員は多数出るのではないかと。それでも、与党の党首不信任投票実施(保守党国会議員360人中54人の不信任状提出が条件)までは可能性が高くても、不信任成立(同180人超の不信任が条件)までこぎつけるのは、相応に難しいように感じられる。首相交代は、勿論、政局不透明感という意味でポンドには売り要因と思われるが、一方で、ここまで有権者の支持を失ったジョンソン首相が続投するのも、英政局の安定には決して肯定的に評価できる展開とは思えない。とりわけ、5月に予定される英地方選に向けて、与党保守党は厳しい選挙戦を強いられることになるのではなかろうか。どちらに転んでも、ポンドが好転して、上昇するような展開は考え難いように思われる。英経済指標は、25日(火)に英12月財政収支の発表が予定されるぐらいで、今週は特段注目すべき要因は見当たらない。

(3) 先週までの相場の推移

先週(1/17~1/21)の値動き: (対ドル) 安値 1.3546 高値 1.3736 終値 1.3551
(対円) 安値 153.91 高値 156.91 終値 154.07



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤 愛

(1) 今週の予想レンジ: 0.7050 ~ 0.7300 80.10 ~ 82.60 円

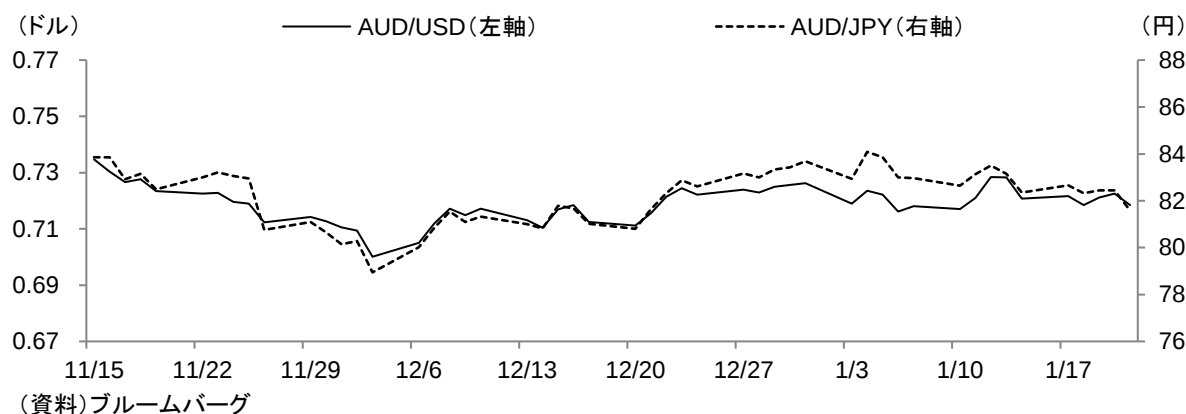
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は0.72台後半まで上昇後、0.71台後半まで下落。17日、NY休場で取引閑散な中0.7210近辺の狭いレンジで推移。この日、中国人民銀行が市場予想に反して、中期貸出制度金利(Medium Term Lending Facility Rate)の10bp引き下げを発表したが、豪ドル相場への影響は限定的だった。18日、日銀金融政策決定会合が一部で警戒されたほどタカ派的な内容とならなかったことから、ドル/円が急上昇。同時に米国債利回りが短期ゾーンを中心に大きく上昇し、株価が急落、豪ドルは大きく値を下げた。この流れは欧米時間入り後も継続し、豪ドルは一時0.7170近辺まで下落した。19日、前日からの流れを引き継ぎ、序盤は0.72を割り込むレベルで推移。その後、米金利が低下し米株価が上昇する動きを受けて、買いが入り一時0.7240近辺まで上昇したが、株価が上げ幅を縮小すると小幅戻して0.7220近辺で引けた。20日、予想以上に堅調な豪12月雇用統計の結果を受けて、豪ドルは買いで反応。瞬間的に0.7260近辺まで上昇したが、そのレベルでの滞空時間は短く、すぐに0.7230エリアまで戻した。NY市場時間に入り、好決算を受けて株価が上昇する動きに豪ドルは0.7280近辺まで上昇したが、その後株価が反落すると連れ安となり、0.7240近辺まで下落して引けた。21日、前日からのリスクオフの流れを引き継ぎ、売りが優勢に。軟調な株価を背景に債券に買いが入り、豪国債利回りは大きく低下。豪ドルは0.7180近辺まで下落して越週。

今週の豪ドルは値動きの荒い展開を予想。今週は25日(火)豪10～12月期CPI、26日(水)FOMC、27日(木)NZ10～12月期CPI、米10～12月期GDPなど注目されるイベントが多数予定されている。25日(火)に発表予定の豪10～12月期CPIに関しては今年最初に開かれる2月RBA会合の政策に影響を及ぼす為(強い結果となれば、テーパリングの2月終了がほぼ確定する)、豪ドルにとって大きな試金石となる。多くの市場参加が強めの結果を予想しているものの、金利先物が織り込むRBAの利上げ確率は既に今年4回を織り込んでおり、ここからどの程度アップサイドに動けるかは疑問の余地がある。注目される各指標発表を受けて市場がどのように反応するのか、注意深く見守りたい。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(1/17～1/21)の値動き: (対ドル) 安値 0.7171 高値 0.7292 終値 0.7172
(対円) 安値 81.50 高値 82.97 終値 81.59



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。